



夕暮れや 恋の求愛 虫時雨

松本享伯

四季風韻 (拾九)

撮影 松本富美雄

目次

リレートーク	この暑さはいつまで続くのか	山田育子	2
戦跡訪問	北茨城九条の碑・模擬原爆		
	北茨城着弾地の碑を訪ねて	櫛田正行	4
被ばく 80 年目”	の「いわき平和のつどい」に参加して		
		龍田光司	7
いわき 9 条の会秋の講演会のお知らせ	布施祐仁氏講演		11
編集後記			12

リレートーク

この暑さはいつまで続くのか

山田町在住 山田 育子

もう9月だというのに、相変わらず暑い日が続いています。

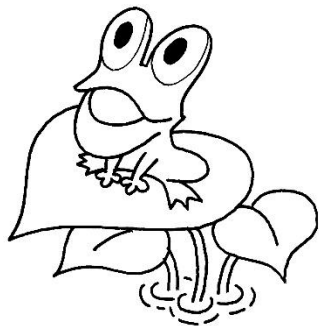
テレビを見ていても必ず「暑さ対策をしっかりとお願いします。」とか「水分をこまめにとってください。」など聞かない日はありません。

私も水分をしっかりとって、できるだけ暑い時間には出かけないようにしています。

暑さのせいで熱中症のため救急車搬送される人も多く、時には命に係わることもあるので心配です。特に高齢者の中にはエアコンをつけずにいたため部屋が蒸し風呂状態の中で倒れていたケースもあります。

このような命を脅かす暑さですが、私たち人間だけが影響を受けるわけではありません。野菜や米などの作物にとってもこの暑さは大敵です。しかも今年は暑いだけでなく雨もほとんど降っていません。

この先このようなことが続いてしまうと、米や野菜の値段が上がってしまう心配があり、生活だって苦しくなるかもしれないのです。



水も大切です。私たちの命を守ってくれるのですから大切に使いたいですね。



この暑さをもたらす原因は地球温暖化によるものだといっても過言ではないと思います。

海水温度の上昇により大型の台風による大雨や暴風、冬になれば日本海側では豪雪になるなど災害の発生率が高くなることを忘れてはいけないと思います。

私たち一人一人ができることは限られていますが、この温暖化を少しでも抑えることが出来ればいいとおもいます。

また日本政府にはエネルギー政策を原発や石炭・火力から再生可能エネルギーに変えると共に省エネルギーを進めることを求めていると思います。

北茨城九条の碑・模擬原爆北茨城着弾地の碑を訪ねて

櫛田 正行

今年の夏は暑い。8月3日も女性は日傘を放すことのできない暑さだった。予てより戦争にかかわる2つの碑を見学予定していたので出かけた。総勢11人である。事前に連絡をとっておいた北茨城九条の会の藤田さんと合流して、九条の碑に向かう。海岸すぐそのわかりやすいところだった。建立者の伊藤満さんは不在だったので藤田さんより説明を受ける。

建立されたのは2022年5月3日。建立したのは伊藤満さん、碑は高さ170cm、幅60cmです。碑は団体で建てるのが普通ですが、そうするとお金のこと、建てる場所、団体の設立など煩わしさを伴うので、伊藤さんが自費で建てたものです。若い頃に小説「人間の条件」（五味川純平著）を読み、平和を意識するようになり、この碑に結実したとのことでした。



さて、碑文ですが表には

日本国憲法

第二章 戦争の放棄

第九条【戦争放棄、軍備及び交戦権の否認】

- 1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

裏面には

戦争は人として、最も愚かな行為であり、戦力とはその道具です。
その戦争と戦力の禁止は、人類の崇高な目標であり理念であり、憲法九条の制定と実現はその確かな道です。そこに向かって進んでいきましょう。 二〇二二年五月三日 これを建立す 伊藤 満
と刻まれている。

私たちは改めて九条の尊さを胸に、次に向かいました。

北茨城模擬原爆着弾地の碑

碑は国道より西の高台の道路わきにあった。建立者の野口さんと石工の神永さんが待っていてくれた。一見魚の形をした御影石製で模擬原爆の1/2の大きさとのことでした。

ここで模擬爆弾について一通り記しておきます。

日本への原爆投下前に米軍が投下訓練のために用いた爆弾です。49ヶ所に投下され、いわきでも、平一小、高久の山中、内郷山中(?)に投下され、平一小では3人が犠牲になりました。

大きさはおおよそ長さ 3.5m、直径 1.5m。その中に火薬を詰めた重さ 4,5t の丸っこい形をしていて、黄色に塗られてカボチャを連想させるのでパンプキンと呼ばれていました。

まず神永さんの話があって、次に野口さんから建碑までの経緯を聞きました。

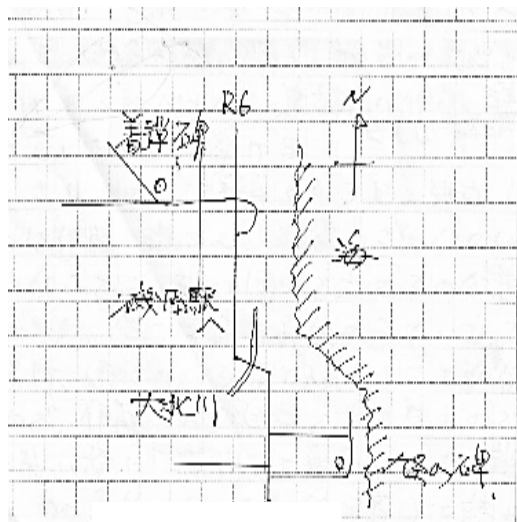
爆弾が投下された昭和 20 年 7 月 20 日に、当時 4 歳だった野口さんのお父さんが見ていたので、その様子を野口さんは聞いていました。

着弾地は碑より北東へ
1,2km のところで、爆風があ
ったとのことから、大きな爆
弾だったことは間違いない
でしょう。地元の人達は着弾
地の山を爆弾山と言っている。
この爆弾が模擬原爆である
ことが米軍資料により初めて知らされたのは 1992 年のことである。
北茨城ではっきりしたのは 2018 年のことである。



碑文の一部を記す。

2018 年、第 6 代磯原雨情会会長の鈴木勝利氏により、爆弾山の爆弾投
下が米軍による原爆投下作戦番号 1 番で原爆投下訓練であったことが判
明。(中略) 北茨城の模擬原爆を忘れず、原爆の被害を身近に感じ、その
痛みを自分のことと想像し、核兵器使用を否定する心を強く持ち続けて
いただくことを願い、地域の方々の平和への思いを込め実物の半分の大
きさで、この石を残す。



模擬原爆着弾地

令和 6 年 (2024 年)

7 月 10 日

撰文 野口友則

石工 神永峰敬

暑い中でも、話を集中し
て聞き、碑の立派さに感動
した見学会であった。

“被ばく 80 年目” の「いわき平和のつどい」に参加して

平和を語る集い

龍田 光司

1. はじめに

今年はアジア・太平洋戦争に「敗戦・被ばく」をしてから 80 年目に当たります。しかし「敗戦・被ばく」と言ってもピンとこない世代の人たちが多数を占めるようになりました。

一方、2016 年には「核兵器禁止条約」が国連で決議され、核兵器を持たない国を中心に条約を批准した国(73 ヶ国)も増えてきたといわれています。また日本の被爆者団体協議会(被団協)の長年の苦労が実を結び、ノーベル平和賞を受けるほどになりました。

8 月 15 日の戦没者の追悼の儀式には広島・長崎の原爆犠牲者の追悼式で唯一の被爆国日本こそ核兵器禁止条約に参加するべきことを訴える両市の市長の宣言も大きく取り上げられました。イスラエルのガサやウクライナの戦争の悲劇が遠い国の話でなかったことを実感させられる番組や記事も多かった。

2. 18 回目を迎える「いわき平和のつどい」

- 1) こうした中でお盆明けの 8 月 23 日(土)・24 日(日)、いわき市文化センターで「いわき平和のつどい」が開催されました。行事のメインは、昨年 12 月、オスロで行なわれたノーベル平和賞の授賞式に被団協の代表として参加された木村緋紗子さんの報告講演でした。



緋紗子さんが 8 歳の時爆心地から 1,5 キロ離れた地点の自宅で被災され、重症のおじいさんの看病、お父さんの死という事実を背負って、生きてこられた。講演終了後に展示場に多くの参加者とともにおいでになって記念写真を撮った。その時の熱気は思いを共にした講演の感動を伝えてくれた。

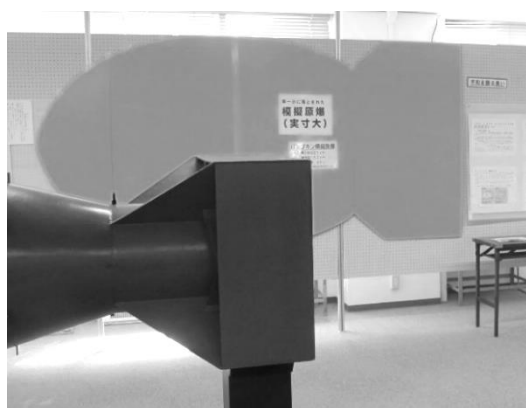
2) 私は展示場係として、「平和を語る集い」の取り組みである「^{たいら}平にも落とされた長崎型模擬原爆パンプキン」や戦争遺品展の説明などに当たっていた。

○ 模擬原爆パンプキンは8月6日のNHK番組「はま・なか・あいつツディ」でも取り上げられたこともあり、知っている方も多かった。

長崎に落とされた原爆は重さ4.5トン、幅152センチ、長さ325センチの巨大な爆弾で、平など全国49ヶ所で長崎に投下される16日前から、重爆撃機B29からの投下訓練が行われた。パンプキンは黄色のカボチャのような塗料が塗られていたのでこう呼ばれていた。

この爆撃は1年前から原爆投下のために編成された群団(兵員1300人、爆撃機15機)の綿密な計画の下に行われたものであった。

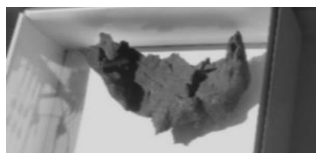
○ 爆撃団の対象となった第三回目の7月26日の^{たいら}平1小では、「空



襲警報」の予告があり、登校していた550人の高等科の生徒と50人の職員は校長先生の優れた判断で校外に退避していた。しかし校長自身と避難の指揮に当たっていた主任の先生と連絡係の生徒5人、さらに残務で逃げ遅れて

いた職員を含め56人が死亡したり、重軽症を負いました。5棟の校舎はたった1発の爆弾で運動場に吹っ飛び、周辺の建物1500戸と5000人に被害を与えた。

学校ではこれを追悼する行事が毎年行われている。亡くなった遺族の悲しみや癒えぬ傷を負い続けた犠牲者の思いを受け継ぐことは、広島・長崎の数十万の被爆者の心を受け継ぐことに通ずると思う。



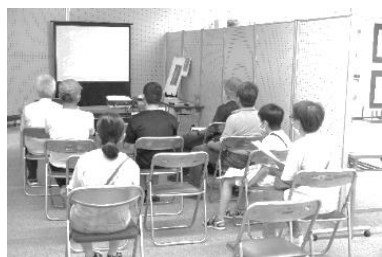
展示された爆弾の破片

会場では実物大の広島型原爆の模型の前
で写真を撮る人、爆弾の破片に見入る人、平
でもこんな戦争があったことに驚く人など
熱心に展示に見入る人がみられた。

3、その他の展示コーナーでは、

○ 入り口から檜葉の宝鏡寺にある原発被災の記念館—伝言館が展示
する日本被爆者団体協議会の戦後の苦難とその実情を世界に伝える
活動の歴史が展示されていた。

○ また印象的なのはいわき市の長
崎に派遣した中学生の訪問学習の
報告会の新聞記事であった。その中
学生たちが展示場を訪れ、熱心に説
明を聞いて質問したりしていたこ
とである。広島の高校生たちが被爆した年寄りたちからの聞き取りを
しながら描いた絵の展示とともに若い人たちのこうした取り組みへ
の参加を期待したい。



○ またいわき地域の戦跡訪問のスライ
ドや写真の解説は特に関心を持つ人も多
く、注目された。特別展には戦前の安積女
子高等女学生が用いていた膨大な教科書
が整理され、戦前の教育のいろんな側面が
わかる面白い展示がなされていた、

○ 戦争遺品のコーナーでは、銃後の生活を示す国債や入営時の千人針、
などとともに植田空襲の被弾者の銃丸、徴用者原簿など、若い世代に
っては全く初めて見る遺品ばかりであったようだ。

- 「金鵒勲章」についての父の思い出を語るかたがいました。しかし決して戦争を賛美することにはなっていませんでした。遺品の主の2冊にわたる軍隊手帳は満州事変、日中戦争、そしてアジア太平洋戦争と度重なる召集を生き抜きながら、最後は南京近くの作戦で亡くなった記録です。目に留まるのは「討伐戦」「殲滅作戦」という記載がいたるところに見られることです。勲章や褒章はどれほどの中国人の犠牲者があって得られたものかを考えてほしいと思いました。生の資料の持つ重みを感じました。



4. 最後に

- 展示会に参加してくれた人は両日合わせて250人ということで、決して多いとはいえませんがそれぞれ思いを込めてみてくださる人が多かった。70代の女性は母から聞いた東京大空襲の思い出を自分のことのように語り、母の受けた被災時の周りの人から受けたという親切について語り続けました。また2人の若い女性が始めから終わりまで、メモや写真を撮り、意見を交換しながら見て回る姿は印象的でした。
- 勿来からは遠いにも関わらず30人近くの人たちが参加してくれていたことにも、運動の広がりを感じる事が出来ました。

いわき九条の会 2025 秋 講演会

戦後80年・日本を再び戦場にしないために 戦争の危機と平和憲法を活かす道

「20〇〇年には中国が台湾進攻!」「台湾海峡有事は日本有事!」
あるいは「ウクライナは明日の日本」などと危機を煽る言説が
あふれる中、日本がとるべき道とは?

と き **11月3日(祝) 13:30~16:00**

ところ **いわき市文化センター 大ホール**

入場料 **500円(学生無料)**



講師 **布施祐仁**さん ジャーナリスト

1976年生まれ。フリージャーナリスト。元『平和新聞』編集長。
平和・安全保障問題を中心に20年以上、取材・執筆を続けている。
『日報隠蔽 南スーダンで自衛隊は何を見たのか』
(三浦英之氏との共著、集英社)で石橋湛山記念早稻田ジャーナリズム大賞
を受賞。
近著に『従属の代償 日米軍事一体化の真実』(講談社現代新書)。
その他、
『日米同盟・最後のリスク なぜ米軍のミサイルが日本に配備されるのか』
(創元社)、『経済的徴兵制』(集英社新書)、
『日米密約 裁かれない米兵犯罪』(岩波書店)など著書多数。

主 催 いわき九条の会・いわき市九条の会連絡会
共 催 いわき文化のひろば・医療生協まちづくり委員会
連絡先 0246-92-3099 (浜通り医療生協 組織部 工藤)

編集後記

今年の夏は猛暑が続き、9月に入ってもなかなか涼しくなりません。
先の参議院選挙の結果、自公が過半数を割り、減少しました。しかし排
外主義・極右的な勢力も伸長する結果ともなり、希望か逆流か、日本政
治はまさに歴史的岐路に立っています。

そんな中で、今年は戦後80年、戦争の準備ではなく、平和の準備をみ
んなでしなければならない年です。

毎日の生活は物価高や米不足などで苦しいですが、みんなの知恵を集
め「戦争の方向」にだけは行かないように心を寄せ合いたいものです。

(T)



勿来九条の会事務局

櫛田正行 65-6973

龍田光司 63-4762

宮川 正 63-4082